

29.物事に取り組む意欲について

- 物事に自発的に取り組む
- 助言や援助が必要である
- 何もしたくない

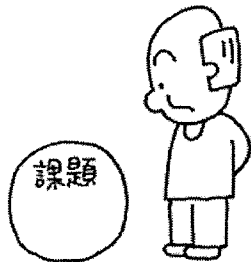


図2-29. 意欲について

30.いま、何か不安になるところがありましたか

- ほとんどない
- 時々ある
- いつも不安である



図2-30. 不安について

31.睡眠状態について

- よく眠れる
- 時々、眠れないときがある
- いつも眠れない



図2-31. 睡眠状態について

### 32.物忘れについて

- 心配していない
- 時々、気になる
- いつも気になる

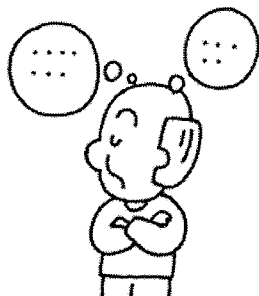


図 2 - 3 2 . 物忘れについて

#### (3) 評価の特長について

作成した評価試案の特長は次の通りである。なお、軽度層の高齢者を対象としているため、対象者が困っていて必要なプログラムは数種類（1～3程度）に限られることを前提としている。

- ①対象者の現在の状況を上記の 3 段階で確認し『本人の困っていること』を把握した後に、『本人の優先順位』を聴き取り、ケアプランの優先順位を検討することができる。
- ②1次判定資料の認定調査項目にチェックされている群のみの評価でもケアプランを検討することが可能である。
- ③各評価項目に対応した絵カードを見ながら質問することで、聴力の低下している対象者や質問の意図が理解しにくい対象者に対してもスムーズに調査をすることができる。
- ④絵カードを用いながら『本人の困っていること』を整理し優先順位を考えることで、本人の意思をプランに反映することができる。
- ⑤上記②～④の結果から、聴き取りの時間を短縮することができる。本評価では 20 分から 40 分で調査可能である。

3. 「軽度層高齢者の類別化」および「軽度層高齢者ケアプランの標準的モデル」について

(1) 調査結果

聴き取り調査は、56歳から96歳（80.8歳±8.9）、男性31名、女性93名の計124名に対して実施し、その結果を用いて類別化を行った。介護度は、要介護1が57名（46%）、要支援者が67名（54%）である。なお、要支援の内訳は旧判定の要支援者25名（20%）、現行の要支援1が17名（14%）、要支援2が25名（20%）である。（表2-1）

表2-1 対象者の属性（要介護度）

	男性(人)	女性(人)	計(人)	割合(%)
要介護1	19	38	57	46
要支援(旧)	4	21	25	20
要支援1	3	14	17	14
要支援2	5	20	25	20
計	31	93	124	100
割合(%)	25	75	100	—

本調査の結果を表2-2に示した。この表は横に32項目の設問、縦に各対象者を記載したものである。

表の記載方法は次の通りとした。

『○』: 該当する設問項目について「できる」もしくは「心配ない」。

『△』: 該当する質問項目について「部分的にできる」もしくは「少し不安」。

『×』: 「出来ない」もしくは「心配である」。もしくは「非該当」。

『!』: 「困っている」と回答した項目。例えば『○!』は本人として「できているが困っている項目」、『×!』は「できなくて困っている項目」である。

『?』: 調査者が判断に迷った項目。





### 1) 『起居・移動』について

本評価領域は、設問 1～4 の 4 項目からなっている。

起居・移動能力について「出来なくて困っている」もしくは「出来ていても困っている」ことがあると回答した対象者は、124 名中 83 名 (67%) いた。逆に、『起居・移動』4 項目のすべてが「できる」、「部分的にできる」、もしくは「できなくても困っていない」対象者は 124 名中 41 名で 33% となり、中には痛みなどの訴えがある対象者もいたが基本動作については特に問題がないと回答していた。

### 2) 『ADL』について

本評価領域は設問 8～12 の計 5 項目からなっている。

本領域で「出来なくて困っている」ことがあると回答した対象者は、124 名中 25 名 (20%) である。主な理由としては、骨・関節疾患、脳卒中やパーキンソン病などの身体的要因が挙げられた。

入浴に関する項目では、「できない・自宅で入浴しないようにしている」と回答する対象者が 124 名中 12 名 (10%) おり、「怪我をしたら困る」、「一人暮らしなので心配である」などの理由からデイサービスなどを利用していた。

### 3) 『IADL』について

本評価領域は設問 5～7、設問 13～20 までの計 11 項目からなっている。

本領域で「出来なくて困っている」もしくは「出来ていても困っている」ことがあると回答した対象者は、124 名中 50 名 (40%) であった。

以下に『IADL』の各項目について設問別の回答結果を示す。

#### ①設問 5：『公共交通機関の利用や自動車、自転車、バイクなどを運転した外出』

124 名中 29 名 (23%) が「できる」と回答したが地域の特性により公共交通機関の利用はほとんどなかった。逆に 60 名 (48%) は「できない」と回答していたが、そのほとんどのものは、同居の家族などに必要に応じて頼むことができており特に問題にはなっていなかった。ただし、14 名 (11%) は「困っていると」感じていた。

#### ②設問 6：『栄養のバランスと量を考えた食事』

124 名中 56 名 (45%) が「できる」と回答し、18 名 (15%) が「助言や指導があればできる」と回答していた。「できない・していない」と回答した対象者は 35 名 (28%) いたが、殆どの回答者は「できなくて困っている」という状態ではなく、同居の家族が実施していた。

#### ③設問 7：『食事の準備と後片付け』

124 名中 48 名 (39%) が「できる」と回答し、30 名 (24%) が「助言や指導があ

ればできる」と回答していた。「できない・していない」と回答した対象者は46名(37%)おり「できなくて困っている」という状態ではなく、同居の家族が実施していた。また、1名は、独居で家族から火の使用を制限されていることから弁当の宅配サービス(自費を含む)を3食利用していた。

④設問13:『健康管理面について』

「自分の健康上の問題を適切に自覚し管理できている」ものが多く、124名中90名(73%)であった。

⑤設問14:『金銭管理について』

124名中43名(35%)の対象者が自分で金銭を管理しており銀行や郵便局、農協などを利用していた。また、32名(26%)は同居の家族が実施しており行う必要がないと回答した。なお、45名(36%)は「助言や指導があれば一人でできる」状態であり、その内6名は「できなくて困っている」と回答した。

⑥設問15:『電話の使用状況』

124名中76名(61%)が必要に応じて使用することができており、「家族・知人などの知っているところ2、3箇所への連絡ができる」18名(15%)を含めると76%の対象者が日常的に利用可能であった。また、15名(12%)は聴力の低下により「使用できなくて困っている」と回答した。その他の対象者は、「使用できなくても困っていない」、「使用しない」と回答し、「詐欺が怖いので電話に出ないようにしている」との理由を挙げているものもいた。

⑦設問16:『ゴミ出しの状況』

124名中28名(23%)が「ゴミの分別や袋を縛るなどの準備を行い、収集場所までもっていく」と回答した。56名(45%)は同居の家族が実施しており、特に行っていなかった。

⑧設問17:『掃除や整理整頓の状況』

124名中62名(50%)が「必要な場所を必要に応じてすることができる」と回答した。「助言があればできる」が27名(22%)おり、その内6名は「困っている」と回答した。29名(23%)は自分で行っておらず4人ができなくて困っていると回答した。

⑨設問18:『買物の状況』

124名中38名(31%)が「必要な品を自分で買いに行くことができる」と回答した。39名(31%)は「援助があればできる」と回答し、主にスーパーなどへの移動を家族に援助されている状況である。47名(38%)は「やらない・やる必要が無い・できない」と回答しており、「できなくて困っている」と回答した対象者は6名(5%)であった。

⑩設問19:『洗濯の状況』

124名中59名(48%)が「必要に応じてできる」状況にある。27名(23%)は「援助があればできる」と回答し、その内「困っている」ものは4名(3%)いた。

⑩設問 20 : 『自宅の施錠、火の始末』などの安全管理

124 名中 60 名 (48%) が「自分で安全に配慮して管理できる」と回答していた。また、「できない・やる必要がない」と回答したものは 42 名 (34%) である。

4) 『社会参加』について

『社会参加』は設問 21~32 までの計 12 項目からなっている。本領域で「出来なくて困っている」もしくは「出来ていても困っている」ことがあると回答した対象者は、124 名中 64 名 (52%) いた。

以下に『社会参加』の各項目について設問別の回答結果を示す。

①設問 21 : 『家族・知人との交流』

124 名中 99 名 (80%) が「家族・知人との交流が毎日ある」と回答した。「家族・知人との交流が週に 1 度もない」と回答した対象者は 4 名 (3%)、その内 3 名は「困っている」と回答した。

②設問 22 : 『視力の状況』

「日常生活に支障ない」と回答したものは 124 名中 103 名 (83%) である。「外出や人と話すことが億劫になる」と回答したものは 21 名 (17%) いた。その内、8 名は「困っている」と回答した。

③設問 23 : 『聴力の状況』

「日常生活に支障ない」と回答したものは 124 名中 91 名 (73%) である。また、31 名 (25%) は、「時々、聞こえが悪いため、歩行や外出に不自由を感じたり人と交流することが億劫になる」と回答しており、15 名 (12%) が「困っている」と回答した。回答者のなかで 2 名は聴力が不自由なため他者と交流ができないと回答した。

④設問 24 : 『他者との意思疎通』

「日常生活に支障ない」と回答したものは 124 名中 111 名 (90%) である。

⑤設問 25 : 『身だしなみ』

124 名中 109 人 (88%) が「清潔で季節感のあるものを自分で選べる」と回答した。「全く気にしない」と回答した対象者は 5 名 (4%) であり、「助言や指導を必要とする」ものは 10 名 (8%) であった。ただし、身だしなみについて「困っている」と回答した対象者はいなかった。

⑥設問 26 : 『生活のリズム』

「規則正しい生活をしている」と回答した対象者は 124 名中 113 名 (91%)。「出来ていない」と回答した対象者は 4 名 (3%) おり、デイサービスを利用することで生活リズムをつくるようにしていた。

⑦設問 27 : 『自由時間の過ごし方』

「自分なりに工夫している」と回答した対象者は 124 名中 89 名 (72%)。また 20



名（16%）が「助言や援助が必要である」と回答し、15名（12%）が「なにもしない」と回答した。その中で5名（4%）が自宅での過ごし方に「困っている」と回答した。

⑧設問 28：『趣味活動』

124名中49名（40%）が「特定のものがある」と回答した。「特定のものはないが好みはある」と回答した対象者は45名（36%）、「なにもししていない」と回答したものは30名（24%）であり、全体で12名（10%）が趣味活動について「困っている」と回答した。

⑨設問 29：『物事に取り組む意欲について』

「自発的に取り組む」と回答した対象者は124名中76名（61%）。「援助や助言が必要である」と回答したものは124名中35名（28%）、「何もしたくない」と回答したものは13名（10%）おり、全体で「困っている」と回答したものは8名（6%）いた。

⑩設問 30：『不安』

「ほとんど無い」と回答した対象者は124名中64名（52%）。「時々ある」は50名（40%）、「いつも不安」は10名（8%）であり、「困っている」と回答したものは36名（29%）いた。

⑪設問 31：『睡眠状態』

124名中74名（60%）が「よく眠れる」と回答した。「時々眠れないときがある」は44名（35%）、「いつも眠れない」は6名（5%）であり、全体で「困っている」と回答したものは19名（15%）いた。

⑫設問 32：『物忘れ』

「心配していない」が124名中58名（47%）である。「時々気になる」は45名（36%）、「いつも気になる」は21名（17%）、「困っている」と回答したものは36名（29%）いた。

(2) 「軽度層高齢者の類別化基準」および類別結果について

軽度層高齢者の類別化をケアプランの策定を念頭に置いて行い各評価領域のチェックに基づいて6群に分類することが出来た(表3-1～表3-6)。以下に各群への類別化の基準と類別結果について述べる。

1) 基本動作困難群(表3-1)

i) 対象

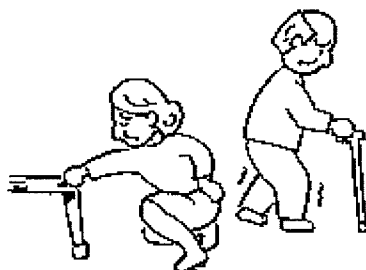
『起居・移動』の実施状況にかかわらず困っていることがあるもの。

ii) 類別化基準

『起居・移動』領域の各項目のいずれかに「困っている」と回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象124名中83名(67%)が該当した。



2) 基本動作高位群(表3-2)

i) 対象

『起居・移動』といった基本動作のすべてを特に問題なく行うことが可能なもの。

ii) 類別化基準

『起居・移動』領域の設問1～4の項目のすべてが「できる」もしくは「心配ない」に回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象124名中12名(10%)が該当した。



### 3) 社会参加高位群 (表 3-3)

#### i) 対象

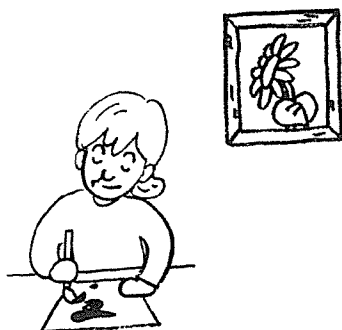
『社会参加』が特に問題なく行えるもの。

#### ii) 類別化基準

- ・ 『社会参加』領域の設問 21~32 の項目のすべてが「できる」もしくは「心配ない」に回答したもの。
- ・ 『社会参加』領域の設問 28・30・31 の『趣味活動』・『不安について』・『睡眠状態』については「好みがある程度」、「時々不安」、「時々眠れない」程度のものは対象とする。

#### iii) 類別結果

調査対象 124 名中 22 名 (18%) が該当した。



### 4) 家庭内役割無し群 (表 3-4)

#### i) 対象

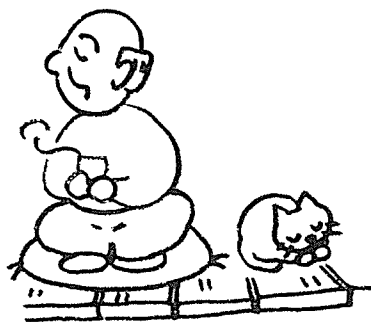
『食事の準備と片付け』・『洗濯』・『掃除』などを同居家族が実施しており、行う必要のないもの。

#### ii) 類別化基準

『IADL』領域の設問 7・17・19 のすべての項目について「やる必要が無い」と回答したもの。

#### iii) 類別結果

調査対象 124 名中 19 名 (15%) が該当した。



5) 意欲の低下および不安が高い群 (表 3-5)

i) 対象

日常的に意欲が低く、なんらかの不安をもちながら生活しているもの。

ii) 類別化基準

設問 27・28・29 のいずれか一つ以上の項目に「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答し、同時に設問 30 も「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象 124 名中 43 名 (35%) が該当した。



6) 意欲の低下および物忘れ自覚群 (表 3-6)

i) 対象

日常的に意欲が低く、物忘れが気になるもの。

ii) 類別化基準

設問 27・28・29 のいずれか一つ以上の項目に「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答し、同時に設問 32 も「部分的にできる (少し不安)」もしくは「できない (不安)」と回答したもの。

iii) 類別結果

調査対象 124 名中 47 名 (38%) が該当した。





表 3 - 2. 基本動作困難群の類別結果

No	性	年齢	介護度	家族	基本動作				ADL				IADL							社会参加																
					1	2	3	4	8	9	10	11	13	5	6	17	19	7	16	18	14	20	15	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30	31	32
10	男	47	要支援	同居	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	×	○	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	△	○	△	中枢(モヤモヤ)
11	女	85	要支援	同居	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	慢性(DM)	
14	女	86	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	△	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	慢性(DM)	
19	女	76	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	○	△	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	認知	
32	男	75	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	×	×	×	×	×	○	×	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	○	○	中枢(DM)	
43	女	85	要支援	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	×	○	△	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	○	△	△	△	○	骨・関節・不眠	
73	女	71	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	○	○	△	×	×	○	△	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	脳梗塞 HT	
83	女	61	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	脳出血 子宮癌	
92	男	46	要支援2	同居	○	○	○	○	△?	○	○	○	○	○	△	○	△?	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	脳梗塞	
95	男	80	要支援2	同居	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	×	△	△	○	×	○	○	×	×	○	急性腰痛症 胃潰瘍 右OA 脊柱間狭窄症	
119	男	73	要支援1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	×	△	△	○	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	×	○	○	○	情報なし	
122	男	75	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	△	△	×	○	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	×	△	○	○	情報なし	

表 3 - 3. 社会参加高位群の類別結果

No	性	年齢	介護度	家族	基本動作				ADL				IADL							社会参加															
					1	2	3	4	8	9	10	11	13	5	6	17	19	7	16	18	14	20	15	21	22	23		24	25	26	27	28	29	30	31
11	女	85	要支援	同居	○	○	○	○	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	○	慢性(DM)
13	女	79	要支援	同居	○	△	△	×	○	○	○	○	○	×	○	○	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	骨・関節
16	女	90	要支援	同居	△	△	○	△	○	○	○	△	○	△	△	△	×	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	骨・関節(粗鬆)
19	女	76	介護1	同居	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	△	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	○	認知
28	女	85	要支援	同居	△	△	×	×	○	○	○	○	○	△	○	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△?	○	中枢・腰P
29	女	88	介護1	同居	×	△	△	△	○	○	○	○	○	×	○	△	○	△	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	腰P
30	男	82	介護1	同居	○	○	○	△	○	△	○	△	○	×	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節
31	女	70	介護1	同居	×	×	×	×	○	○	△	○	△	○	×	×	×	×	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	骨・関節	
35	女	90	介護1	同居	×	×	△	×	○	○	○	○	○	△?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節(粗鬆)
38	女	84	介護1	同居	×	△	△	△	○	○	○	△	○	△	×	×	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	慢(高血圧・心)	
45	女	88	介護1	同居	○	△	×	△	○	○	○	○	○	×	×	○	○	×	×	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	△	慢(高血圧)・脳虚血	
46	女	95	介護1	同居	×	△?	○	×	○	○	○	△	○	△	△	△	△	△	△	△	○	○?	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△?	慢(心)	
47	女	91	介護1	同居	△	△	△	△	○	○	○	○	○	△	○	○	△	○	△	△	△	△?	○?	○	○	○	○	○	○	○	△	○?	△	骨・関節・慢(心)	
51	女	83	介護1	同居	×	△?	○	×	○	○	△	△	○	×	△	△	△	△	△	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	パーキンソン	
60	女	84	要支援	同居	○	△	×	○	○	○	○	○	○	×	○	△	×	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	骨・関節	
62	男	78	要支援	同居	○	△	△	△	○	×	○	○	○	×	○	×	×	○	○	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	中枢	
92	男	46	要支援2	同居	○	○	○	○	△?	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○	○	○!	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	脳梗塞	
102	女	89	介護1	同居	△	△	△	×	×	×	×	○	○	△	○	△	○	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳梗塞・OA	
106	男	59	要支援2	同居	○	○	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	脳卒中	
108	女	84	要支援2	同居	×	△	△	×	×	×	×	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	○	○	変形性膝関節症・腰椎症	
121	女	95	要支援2	同居	×	△	○	△	○	○	○	△	△	△	△	△	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	情報なし	
114	女	69	要支援1	同居	△	△	△	×	○	○	○	○	○	○	○	○	△	△	△	△	△	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	△	情報なし	









## 7) 類別結果のまとめ

平成 17 年度に作成した「軽度層高齢者ケアプラン作成のための評価」を用い平成 17 年度、18 年度に計 124 名を対象とした調査結果を図 2 に示した。各群の類別基準、類別結果は前記の通りである。対象者は「基本動作困難群」がもっとも多く 67%、次に「意欲の低下および物忘れ自覚群」38%、「意欲の低下および不安が高い群」35%、「社会参加高位群」18%、「家庭内役割無し群」15%の 6 群に類別することができた。但し、単独で 1 つの群に属する場合は少なく、表 4 に示したように類別結果は各個人によって重複していることがわかった。

